

整形外科研修プログラム

研修目標

医師として基本的な知識や技術を身に付けると同時に医療チームの一員としての自らの立場や役割を認識し行動できるようになること。

医師としての自覚を持ちいかなる場合においても患者の尊厳を尊重し真摯な態度で接することができるようになること。

行動目標

1. 自分の考えを持つことは重要であるが独断に陥らないようにするため上級医やコメディカル、他科などの関連したスタッフの意見にも耳を傾けて柔軟に取り入れ良好なチームワークを築けるようにする。
2. 診療記録の記載、必要に応じ診断書をはじめとする各種文書を適切に作成できるようにする。
3. 基本的な診察技術および臨床検査技術を習得するとともに、特殊検査についてはその見学・介助を通して目的・方法を習得し、判断ができるようになるようにする。
4. 救急患者に対応しプライマリー・ケアの基本的知識と技術を習得する。
5. 手術に際して、清潔・不潔の概念を知り手術における基本的手技を身につける。
6. 受け持ち症例のプレゼンテーションの際に整形外科の専門用語を理解し適切に使えるようにする。
7. 常に医療情報に関心を持ち、各種勉強会には参加する。またテーマを決めて関連した英文雑誌を読み抄読会で発表する。

初期2年のプログラム

- ①1年目:1ヶ月間(必修)。
- ②2年目:主選択の場合、最長6ヶ月間(選択期間内)。

整形外科の①1年目1ヶ月の研修プログラム

整形外科研修プログラム(1ヶ月間のプログラム)

前半2週間

病棟業務:総回診(月曜日5c病棟 水曜日6c病棟)に参加し整形外科入院患者の把握。

静脈穿刺 動脈穿刺手技の習熟。創の消毒 抜糸や抜鉤の方法を知ること。直達牽引(鋼線刺入)の見学。整形外科でよく使用する薬(消炎鎮痛剤 骨粗鬆症の薬 抗リウマチ薬 抗生剤など)について理解すること。仙骨硬膜外ブロック 神経根ブロックなどの見学。手術症例について術前評価し手術適応の決定に至るまでの経緯を理解する。周術期における患者の病態把握と対処方法を知る。

外来業務:外来の見学をしつつ実際に患者に接し病歴の聴取と診療録記載 身体所見のとり方について理解を深める。新生児検診の見学。さまざまな部位におけるレントゲン撮影オーダーの仕方について学びさらにMRIやCTを依頼するタイミングや方法を学び画像の読み方などを学ぶ。骨密度測定結果の見方を知る。血液生化学検査、生理機能検査(神経伝導速度など)について検査依頼のやり方その結果を評価し理解できるようにする。リハビリ処方 他科依頼の書き方を知る。包帯巻き 三角巾固定の方法を知る。副木固定 ギプス巻きを見学あるいは介助しその方法 意義を理解する。

手術:手洗い 術衣などの装着 クリーンルームでのフード装着 手・足持ちの介助方法を知ること 助手として鉤引き 糸結びの習熟 糸の切り方 吸引の方法などを知ること。各手術の方法と意義についての理解する。

カンファレンス(火曜日夕方5:30): 上級医指導のもと患者のプレゼンテーションを行う。

救急業務:救急総合診療科からの要請に対して上級医とともに行動し多くの症例をみるようにする。

後半2週間

前半2週間の内容の継続に加えて各個人の力量に応じて下記を追加

病棟業務:骨折患者を受け持ち入院・治療計画を立てて上級医の指導のもと遂行する。手術症例については術前評価や周術期管理など指示を出すなど上級医とともに行う。直達牽引の際に鋼線刺入を行う。

救急・外来業務:創傷の処置(デブリードメント 洗浄 皮膚縫合) 関節穿刺

上級医とともに骨折整復 副木固定 脱臼整復 肘内障の整復を行う。

手術:腰椎穿刺。皮膚の縫合。容易な大腿骨外側骨折骨接合術を上級医とともに行う。

カンファレンス(火曜日夕方5:30):研修期間中にテーマを決めて関連した英文雑誌を読み抄読会で発表する。

以上 各個人の力量や要望 遭遇した症例にもよるためもちろんすべて経験できるわけではありません。

努力目標として研修を行ってください。